

# 平成 25 年度 介護老人保健施設やわらぎ目標

## ■施設全体スローガン

『引き出そう、利用者様の生きる力。』

『高めよう、コミュニケーション力。』

『信じよう、私たちの力。』

## ■各事業所・部署 年間目標

<p>老人保健施設やわらぎ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護老人保健施設の役割を認識し、在宅復帰を目指す。</li> <li>2. 多職種協働にて連携を深め、専門職としての知識の向上に努める             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 家族カンファレンスの内容充実。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時の医師のかかわりの検討。</li> <li>・入所 1 か月カンファレンスで、家族の希望や問題点の抽出。</li> <li>・入所 3 か月カンファレンスで、今後の方向性を決定。</li> </ul> </li> <li>② リハビリとの連携                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有のため会議の開催。(2 か月に 1 回)</li> </ul> </li> <li>③ 看護・介護の連携、研修会の開催。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の対応・看取りの対応・虐待の対応等ミニカンファレンス開催。</li> <li>・研究発表の取組 (年度末に発表)</li> </ul> </li> <li>④ コスト意識                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつの毎月見直し。</li> <li>・光熱費の削減強化。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>消灯時間の徹底・空調管理・加湿器管理</li> </ul> </li> <li>・コピー用紙の削減。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>行事等</li> </ul> </li> <li>・物品、備品の管理方法の徹底。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ベッド、車椅子等</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>
<p>デイケアやわらぎ</p>	<p>目標「個々のニーズに対応して、その人らしい在宅生活が送れるようサポートする」</p> <p>目標達成の為の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ニーズの把握             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ケアマネのプランや御利用者・ご家族との会話、リハビリの訪問で得た情報を共有し、個々のニーズ把握に努める。</li> </ul> </li> <li>② カンファレンスの開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>→前年度から開始した他職種によるカンファレンスを継続して実施。送迎方法等の細かい部分の見直しも行う。</li> </ul> </li> </ol>

	<p>③ PR活動の実施 →空き状況やデイケアの様子など外部に向けて発信する。メール等の利用。 お試し体験の呼びかけ。H24年度は29名。H25年度は35名目標。</p> <p>④ 短時間デイケアの増について H24.3月現在の短時間利用者数 月1、火2、水2、木3、金3 ※水～金の1名ずつ以外は迎えか送りあるいは両方を家族に協力してもらっている状況。 →送迎が確実にできるような体制づくり。</p> <p>⑤時間延長サービスに対して 夕方の延長に対する対応は今後の検討課題 →8時半迎えの受け入れを増やす。 新規御利用者の獲得及び中止者の減 H24年度は新規御利用者55名に対し、中止42名。 中止者の中には送迎時のアクシデント、スタッフの対応への不満等避ける事が出来たケースあり。 →アクシデント防止の為に介助方法及び注意事項の徹底。 接遇の意識向上。 送迎時など家族とのコミュニケーションを大切にする。 お試し体験者への対応の工夫。</p>
ヘルパーステーション やわらぎ	<p>ご利用様が住み慣れた地域・自宅によりよい生活が出来るように支援します</p> <p>①技術・質の向上 ・月1回の研修会への参加 ・毎月のステーションカンファレンスの開催</p> <p>②地域・ご家族様・他職種との連携を取る ・担当者会議への参加 ・ご利用様の様子、状態を報告する ・居宅事業所への月1回の訪問</p> <p>③同愛会の在宅部門として、病院・老健との連携 ・ご利用様の情報提供、情報収集 ・病院・老健内研修会への参加</p> <p>④利用者数38名 訪問回数月480回 ・現利用者様との信頼関係を築きさらなる依頼に繋げる ・居宅事業所への訪問活動を行い、新規獲得へ繋げる</p>
サービスプランやわらぎ	<p>介護保険制度に基づき、ご利用者が可能な限りその能力に応じ、居宅において自立した生活ができるよう、医療・介護・保健福祉の総合的サービスを効果的に提供していきます。</p> <p>① 利用者及び家族介護者の人格人権を尊重し、個人情報保護・守秘義務を遵守します。</p> <p>② 利用者の要介護状態重度化の予防に努め、利用者の意思を尊重し、可</p>

	<p>能な限り居宅において自立した生活が営めるよう、コーディネート能力の向上に努めます。</p> <p>③ 医療・介護・保健福祉・行政等各関係機関の他、インフォーマルサービスなど専門的な視点からの多職種協働のチームアプローチ強化を図ります。特に、病院、診療所（かかりつけ医）、訪問看護ステーション等の医療機関と日常的な連携体制を構築し、医療との連携強化に努めます。</p> <p>④ 指定居宅介護支援運営基準を遵守し、安定した運営が行われるように努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規ケースの柔軟な受け入れを心がけ、給付管理件数の安定を図ります。</li> <li>・給付管理件数 130 件/月、予防給付受託件数 20 件/月の確保、維持を目指します。</li> <li>・介護報酬算定要件に注意し、加算項目を適切に請求します。</li> <li>・運営基準減算要件を把握し、適正な請求を図ります。</li> <li>・特定事業所加算Ⅱの要件を遵守し、適正な請求業務と運営基準に基づく諸記録の整備を行います。</li> </ul>
施設ケアマネ	<p>ご利用者様一人ひとりに合わせたケアプラン（施設サービス計画）を作成し、個々の状態や目標に添ったケアサービスが提供出来る様努めます。</p> <p>① 職員がケアプランを周知でき、個々に合ったケアが提供出来るよう職員への周知に努めます。</p> <p>② 家族・多職種での定期的なカンファレンスの開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・的確なアセスメントの実施（希望・目標達成のための情報収集）</li> <li>・意向・方向性の確認・目標設定</li> <li>・情報の共有・連携</li> </ul> <p>③ 在宅復帰につながるケアサービスの提供、目標の達成が出来るよう努めます。</p> <p>④ ご利用者様・ご家族様へ、ご利用者様の様子や状態等が的確に報告できるよう努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族参加・協力</li> <li>・外出・外泊の取り組み</li> <li>・余暇・趣味活動参加の声かけ</li> </ul>
支援相談員	<p>[目標]</p> <p>介護老人保健施設としての役割を果たせるように、ベッド回転率を上げ、多くの方にリハビリテーションを受けていただき、共に社会復帰を目指します。</p> <p>[行動目標]</p> <p>① 在宅復帰年間 40 人</p> <p>在宅復帰が可能になるよう、ご本人、ご家族とのカンファレンスを入所時、3 か月毎に行い、多職種で問題を解決しながら、在宅復帰が一人でも多くできるように支援する。</p> <p>② 平均在所日数 365 日以下</p> <p>在宅復帰が困難な方には、他施設との連絡を密に取り、ご本人やご家族に</p>

	情報提供を行い、老健入所が長期化しないように支援する。
事務部	<p>① コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度実績に加え、施設会議、研修会、勉強会等プロジェクターを使用しペーパーレスに取り組む。(目標：白黒コピー2%、カラーコピー5%削減)</li> <li>・物品管理を引き続き行い、物品購入を計画的かつ効率的に行う。</li> </ul> <p>② 窓口の接遇に心掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話対応、ご利用者、ご家族に対する窓口対応を明るくかつ丁寧に行う。</li> </ul> <p>③ 請求業務等の正確さに務める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過誤・返戻・請求の取りこぼしのないよう毎月の請求業務に心掛ける。</li> <li>・窓口の未収金回収に努める。</li> </ul>
栄養部	<p>① 安心と満足を提供できる食事サービスを目指します。</p> <p>② 管理栄養士として他職種や博愛病院栄養管理部との連携をはかります。</p> <p>③ 施設栄養士として出来るコスト管理を行っていきます。</p>
リハビリテーション部	<p><b>【活動目標】</b></p> <p>「利用者様が主体的に生活できるよう、問題意識を持って業務にあたり、他職種との連携を図る」</p> <p>→御利用者が目標を持って生活出来るよう、専門職として何が行えるかを考えながらプログラム作成・リハビリ提供にあたる。</p> <p>他職種を尊重し、相手の立場に立って意見交換を行い、御利用者のケアにあたる。</p> <p><b>【目標達成の為の計画】</b></p> <p>① 専門職として個々のレベルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ室内での症例検討会の開催 (月 1 回程度)。</li> <li>・外部研修への参加。</li> <li>・室内カンファレンスの実施 (月～金 業務全般について)。</li> <li>・リハビリ室発信の研修会の開催 前後期各 1 回。</li> </ul> <p>② 他職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ計画書の作成を一緒に行う→新規御利用者だけでなく 3 か月以降の計画書に関しても実施。</li> <li>・生活フロアでの動作 (入浴・排泄・食事・更衣等) の評価・練習を積極的に取り入れ「出来る活動」と「している活動」の差を近づける。</li> </ul> <p>③ 短期集中リハビリ等の拡充・コスト意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイ御利用者の個別リハビリを強化→H 2 4 年度は月 2 0 ～ 2 5 人程度のリハビリ実施。H 2 5 年度は月 3 0 人以上を目標。</li> <li>・カンファレンス等担当が 2 人以上いる場合には、1 名が参加する。もう 1 名は加算の取りもらしが無いよう、リハビリ提供にあたる。</li> <li>・リハマネ算定要件の訪問と訪問指導加算がセットでとれるよう図る。</li> <li>・残業を減らす→書類の簡素化が図れるよう、各書式の見直しなど行う。</li> </ul>